

中学生海外研修2026

2026.8.17

Vol.7



オーストラリア直送レポート

ドリップストーン校グループ

教育委員会社会教育課 栗栖 / 吉備中学校 平野

ドライバー・ローズベリー校グループ

教育委員会社会教育課 高垣 / 御霊小学校 生駒

ありがとう、オーストラリア！たくさんの思い出を胸に、いよいよ帰国

ドリップストーン校

8月16日（日）から17日（月）にかけて、11日間にわたるオーストラリアでの現地研修を終え、生徒たちは日本へ帰国しました。

最後の土日、生徒たちはそれぞれのホストファミリーと一緒に過ごしました。家族と出かけたり、一緒に食事をしたり、ゆっくり家で過ごしたり。それぞれの家庭で最後の時間を大切に過ごしたようです。

そして、8月16日（日）夜10時。ダーウィン空港に生徒たちが集まってきました。ホストファミリーに送ってもらい、一人、また一人と生徒たちが空港へやってきます。ホストファミリーとの別れを惜しみ、涙を流す生徒たち。生徒を抱きしめながら涙を流すホストファミリー。中には「まだ帰りたくない」と話す生徒もいました。感謝の言葉を伝えたり、手紙を渡したりする姿も見られました。



出会ってからわずか数日間ですが、一緒に生活をし、学校へ通い、食事をし、さまざまな

時間を過ごす中で、言葉や国を越えた大切な関係が築かれていたことが伝わってきました。

今回の研修を通して、生徒たちは多くの人に支えてもらいました。研修の計画段階から現地での活動まで、さまざまな場面で支えてくれた現地校の先生のカリンやティム。そして、生徒たちを家族の一員として温かく迎え入れ、毎日の生活を支えてくれたホストファミリーの皆さん。皆さんのおかげで、生徒たちは安心してオーストラリアでの生活に挑戦することができました。空港での別れを見ていると、生徒たちとホストファミリーの間に、短い期間ではあっても本当に素晴らしい関係が築かれていたことを改めて感じました。

8月17日（月）午前1時10分、ダーウィン空港を出発し、ブリスベンへ向かいました。帰りの行程は、行きのような大きな予定変更もなく、ほぼ予定どおりに進みました。ただ、夜間の移動に加え、11日間にわたる研修の疲れもあり、ブリスベン空港では仮眠をとる生徒の姿や、そんな中でも、最後まで「外国人にインタビューする」という研修のミッションに挑戦する生徒が見られました。

オーストラリアでの出来事やホストファミリーとの思い出を楽しそうに話す生徒たちの姿もありました。「ホストファミリーとこんなことをした」「現地の学校でこんなことがあった」「楽しかった！」そんな思い出話が次々と聞こえてきます。一方で、「日本に帰ったら何を食いたい？」という話で盛り上がる生徒たちも。オーストラリアでの生活を振り返りながら、少しずつ日本での生活へと気持ちを切り替えていっているようでした。

8月17日（月）午前11時40分にブリスベンを出発し、午後8時30分頃、関西空港に到着しました。その後、バスで有田川町へ向かい、午後10時頃、吉備庁舎に到着しました。家族の待つ場所へ戻ってきた生徒たちは安堵の表情をしていました。

長い移動を終えた疲れはありながらも、無事に帰ってくることができました。振り返れば、今回の研修は、決して楽なことばかりではありませんでした。出発直後には飛行機の遅延や予定変更があり、約1,000kmの長距離バス移動を経験しました。現地では、慣れない英語での学校生活や、家族と離れて過ごすホームステイなど、戸惑ったり、苦労したりする場面もあったと思います。それでも、生徒たちはその一つひとつに向き合い、前向きに頑張りました。

オーストラリアの良さを新たに発見した生徒もいれば、海外での生活を経験したことで、これまで当たり前だと思っていた日本の良さを改めて感じた生徒もいると思います。

さまざまな価値観、文化、そしてたくさんの人と出会い、挑戦したからこそ、この11日間で、一人ひとりがそれぞれ何かを得ることができたと確信しています。

オーストラリアでの現地研修は、これで一区切りですが、生徒たちの海外研修はまだ終わりではありません。今週の木曜日からは、さっそく事後研修が始まります。現地で学んだことや感じたことを振り返り、それぞれの研修テーマについて研究結果をまとめ、発表していきます。

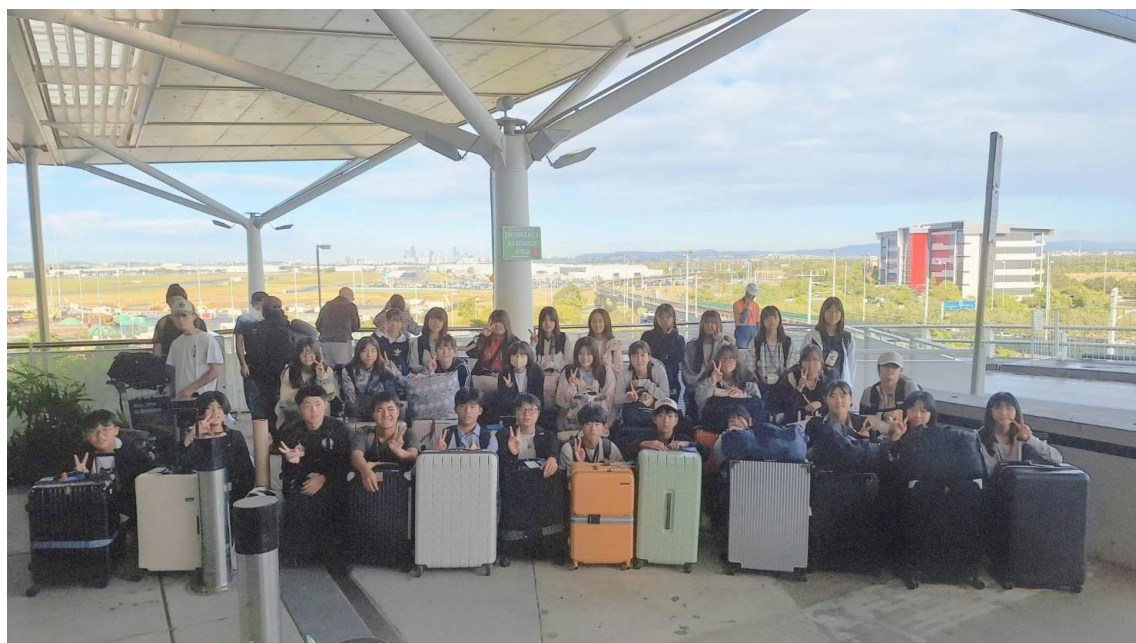
今回の研修で得た経験を、今度は有田川町の皆さんや学校、そして後輩たちへ伝えていくこととなります。30名の生徒たちは、今回の研修で有田川町の代表としてオーストラリア

を訪れました。だからこそ、ここで得た経験を自分たちだけの思い出にせず、地域や学校へ還元し、次の世代へつないでいてほしいと思います。

楽しかったことも、嬉しかったことも、戸惑ったことも、苦しかったこともあったと思います。それでも最後まで前向きに挑戦し、一歩ずつ進み続けた 30 名の生徒たち。本当によく頑張りました。

そして、この研修を無事に終えることができたのは、生徒たちの頑張りだけではありません。温かく送り出してくださった保護者の皆さま、学校で支えてくださった先生方、そして今回の研修に関わり、ご協力いただいたすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。

そして、オーストラリアで私たちを温かく迎えてくださった皆さま。本当にありがとうございました。生徒たちがオーストラリアで見つけたたくさんの「出会い」と「学び」が、これからの有田川町を担う一人ひとりの力となり、次の交流へとつながっていくことを願っています。



ドライバー・ローズベリー校

オーストラリア 8月 16・17 日

オーストラリア最終日の日曜日は、ホストファミリーとお別れの日です。夜 9 時にドライバー・ローズベリー校は、空港へ集合です。

7 組 14 名がそれぞれのホストファミリーに送迎してもらいました。

8 日間お世話になった、オーストラリアの家族とのお別れです。別れ際には、それぞれの

家族がそれぞれに、お礼の手紙を渡したり、プレゼントを交換したり、ハグをして、涙ぐんで、別れを惜しんでいました。

ホストファミリーは、この1週間、本当に自分の息子、娘以上に可愛がってくれました。食事に、お出かけに、学校の送迎に、いっぱいいっぱいお世話をしてくれました。見送りに来てくれた家族と記念撮影をして、お別れをしました。

こちらでも写真撮影をしながら、もらい泣きをしようなのを我慢しながらシャッターを押してました。ホストファミリーの中には、来月日本に来日してくれる生徒もいるので、直ぐに会える相手も居ます。当然なかなか会えないメンバーもいます。

しかし、今では時代が進みsnsで繋がっていただける時代です。アドレス交換をしてこれからも連絡を取り合ってくれると思ってます。

さて、ホストファミリーと別れたあとは、これからがまた長旅です。ダーウィンからブリスベンまで5時間。ブリスベン空港で数時間過ごしたのち、関空へ向けて出発します。

帰りの空港では、『まだまだ居たい、帰りたくない』。ホームシック気味だった子も、いつのまにか『まだ居てれるわー、いや、どちらかと言うとまだ居たい』そして何よりも、印象に残っているのは、帰りに空港に現れた時の顔つき、表情です。

行く時の期待と不安から充実した満足感へ変わっていった表情を日本で待ってる家族に早く見てもらいたいと感じました。そして、言葉も通じない見知らぬ地で、過ごした日々の経験値がみなさんをたくましくも、頼もしくもしてくれたと思います。

